

幸福度日本一の福井発見シリーズ

私のふくい探訪

発信力強化で
福井の
イメージ向上を

今から十五年ほど前近畿経済産業局に勤務していた頃から福井県の方々との付き合いが始まった。局は二府五県を担当していたが、今でもお付き合いをさせていただいているのは福井県の方々が一番多い。それは、福井県の方々の何とも言えない温かみのあるお人柄によるものと思う。そのお人柄はどこから来るのか。一言で言えば、福井県の豊かさと文化的素養の高さだと思う。海の幸、山の幸、水の豊かき、そして歴

史的に輩出されてきた優れた人材の蓄積などに由来するものだと思う。

友人に案内していただいて「平泉寺」を訪れたことがある。静寂と極めて内省的な緑の空気が、「ああ、これが福井なんだなあ」と感じ入ったのをよく覚えている。過度に自己をひけらかすことなく、一方で哲学的とも言える深みを保持している文化遺産。福井県が「幸福度ランキング日本一」と言われ、教育

水準が大変高い県であることもよく頷ける。

しかし、こうした福井県の優れた特色について、全国の、そして県内の若い人達の認知度は低いように見受けられる。例えば、コシヒカリは福井県生まれであり驚くほど美味だが、新潟県の方がはるかに有名である。現在、各方面で女性の活躍推進が叫ばれている。福井県では大家族的システムが継承されており女性が働くことは

当たり前になってきているが、女性活躍先進県というイメージは乏しいし、若い女性の地元定着率は低いと伺う。それは、福井県の方々の物事をひけらかすことを好まない、実質を重視するという性向(私自身はそれを大変好ましく思っている)によるものではないかとも思うが、それは、同時に現代社会に余り適合しないことでもあろう。

今、大事なことは、「発信力の強化」ではなからうか。まず、福井県のことをよく知ってもらう、そして訪れてもらう、産品を購入してもらう、そして評価してもらう。こういう循環をさまざまな主体が意図して生み出す努力を続けることが大切ではないかと思う。



商工中金社長
すぎやま ひでじ
杉山 秀二

1971年東京大学法学部卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。近畿経済産業局長、中小企業庁長官などを歴任し2004年から2006年まで経済産業事務次官。2008年より商工中金副社長。2013年より現職。

エネルギーとこと

エネルギーを何で賄うかは、食糧や防衛の問題と同様に国の存立そのものに関わります。私たち一人ひとりが日本のエネルギー・環境問題の現状を真剣に考え、将来に向け責任ある行動をとることが重要です。

福井県経済団体連合会 会長 川田 建 男

福井県環境・エネルギー懇話会
〒918-8004 福井市西木田 2-8-1
福井商工会議所ビル 6F

▶バックナンバーはコチラから

福井県環境・エネルギー懇話会 検索

本コラムは、
今回が最終回となります。
お読みいただき、
ありがとうございました。